

# 制作による絵本理解と言葉の視覚化の重要性について

Visualization of messages and Importance of handmade picture books

松 田 理 香\*

Rika Matsuda

This report describes the knowledge extracted from the lecture in which picture books have been made for ten years. We found that the lecture is significant for the junior students who study arts in life and local cultures. This finding is based in the fact that they can study the ways of the expressions by themselves in production processes of picture books.

## はじめに

絵本制作の授業を平成21年度(2009年度)から担当し令和元年度(2019年度)で10年目となる。生活芸術科(旧学科)においては一年生専門科目として夏季に集中講座(「特別講座Ⅰー絵本制作ー」)として実施していたが、地域創成学科(新学科)においては、デザインユニットの中の一年生専門科目に位置付けられ平常授業(「絵本とイラストレーション」)として実施している。

生活芸術科は新学科に移行するまでの64年間(1955年度～2018年度)、「美術文化の発展に貢献できる美的感性を備えた教養ある人物の育成」を目指し、美術による環境の美化と豊かな生活の創造を教育的責任として捉え実践してきた。資料室には、かつてのデザイン系科目の課題の一つだったと思われる「絵本作品」が数点残されている。それは数種類の色紙を使った切り絵のようなものであったり、鮮やかなカラーインクのにじみを活かしたものであったり、また色はないが紙に凹凸をつけてエンボス加工を試みたものもある。参考作品として残された絵本はどれも手作業で作られた美しい仕上がりで、当時の学生たちが時間をかけて取り組んだことが伝わってくる。

日本で絵本の起源として考えられるものには、平安時代の絵巻物(卷子本)や、室町時代の奈良絵本、江戸時代の草双紙などがあり、「子ども絵本の中でもっとも古いものは、江戸初期の上方子ども絵本とされている」。<sup>1)</sup>口承や書承による昔話や物語の伝承をまとめたものは、生活上の智慧や知識、生き方の示唆などをそれぞれの生活スタイルに合わせて多面的に解釈することができることから訴求力があり、年代を問わず受け入れられてきた。絵本は情報量が豊富で伝承力が強く、多くのメッセージを視覚化できることから印象に残りやすい。学生は幼少期に読んだ絵本をいくつか覚えており、印象に残っているものをたずねると『ぐりとぐら』<sup>2)</sup>

\* 地域創成学科

『はらべこあおむし』<sup>3)</sup>『あらしのよるに』<sup>4)</sup>など、色や形に工夫が見られる絵本をいくつかあげた。授業ではテーマや表現方法に制限を設けず比較的自由度の高い課題として提示しているが、学生たちにとって絵本のパーツとなるいくつかの図面を色画用紙やボール紙に書いてカッターで切る、両面テープや糊などを使用して台紙に加工する、また時間や空間を意識した16ページのストーリー展開を考え、描画材を使って仕上げるといった一連の作業は簡単ではないようである。新学科は美術を専門とする学科ではないため、クレヨンや色鉛筆、水彩絵具などの画材を使って何かを描いたのは小学生以来という学生もいる。スマートフォンなどが生活の一部になっている学生たちは、デジタル機器での検索や情報の取得には慣れており、美しい光の色があふれている映像や動画に毎日のように触れているが、多くは受け身的で、自分で作り出すことよりも探し出すことに時間を割いているように見える。絵本は特殊な形態をしたものもあるが、基本的には印刷物として量産される出版物であるため、キャンバスや板パネルに描く絵画やポスターなどの平面的な作品とは違い、「書物の形式をとること、複数の画面で構成される冊子体であることが大きな特徴である」。<sup>6)</sup>絵本は自己表現的であると同時に他者を意識して作らなくてはならない。自己表現の世界では「自由な発想」がしばしば求められるが、考えていることを伝えるための方法として「わかりやすさ」を追求するデザイン的な視点があることを、作業を通じて知ってほしい。

学生たちが制作したこれまでの絵本作品のテーマや表現方法を振り返り、絵本制作が言葉には表しにくい気持ちを視覚化するものとしてどのような役割を担っているのか、地域創成学科の今後の造形活動の方向性を見いだしていきたい。以下に、シラバスに沿った絵本制作の実践について記す。

## 1. 授業方法

### ①授業の基礎情報

#### 【目的】

言葉だけでは伝えきれないものを絵や図像によって補い、伝承・伝達の手段の一つとして絵本は存在する。絵本はページをめくるという場面展開の多様性や視覚表現の幅広さが特徴となっている。わかりやすく他者に伝えるためにデザイン的な視野を持ち、言葉とイメージを編集する作業であることをふまえて絵本を制作する。

#### 【材料・道具類】

- ・色画用紙
- ・ボール紙
- ・両面テープ
- ・描画材(色紙、水彩絵具、色鉛筆、サインペンなど)
- ・道具類(のり、ハサミ、カッターなど)

②授業の具体的展開

**【導入】**

◎ガイダンス

- ・ イラストレーション表現に面白さがある本や、構成や造本、色調に工夫が見られる本など、デザイン的な視点に基づいて参考となる絵本に触れる。

◎さまざまな表現技法の体験

- ・ 色鉛筆を使用して「花」を描く。線描きや塗り絵などで表現する。
- ・ クレヨンを使用して「太陽」を描く。
- ・ アクリル絵具や水彩絵具を使用して「風景」を描く。  
にじみやぼかし、擦れ、型押し、合わせ絵(デカルコマニー)などの技法を体験する。
- ・ 折り紙や色紙を貼りつけるなどして「お弁当」を表現する。紙をちぎる、紙を丸めて皺を作る、重ねて貼りつける、他の材料と組み合わせるなど自由に制作する。

◎本の構造を知る

- ・ 製本の種類と本の各部の名称
- ・ 紙のサイズと種類、特性
- ・ 印刷の種類と特性

**【本制作】**

- ・ サイズを確認し、ページ数に合わせたストーリー展開を考える。
- ・ テーマやストーリー内容に合わせた表現方法、表現材料を決め、制作する。
- ・ 表紙と裏表紙のデザインを考える。
- ・ 合本して仕上げる。

**【鑑賞】**

- ・ 完成した絵本を発表する。
- ・ お互いの絵本を鑑賞し合い意見や感想を述べる。

**【提出】**

- ・ 他人の意見をもとに自分の作品を見直し、必要に応じて修正し提出する。

## 2. 成績評価の方法

### ①「独自項目による評価」平成21年度(2009年度)～平成27年度(2015年度)

表1 独自項目による評価(2009～2015)

| 評価内容(100点満点) |   |
|--------------|---|
| 1.           | 仕上げの正確さ(20点)<br>サイズ・ページ数・表示(タイトル・作者名・出版社名・ISBN・バーコード・値段など)  |
| 2.           | 16ページのストーリー展開(50点)<br>表現技法・ストーリー性・テキスト(誤字脱字の有無・タイトルとの整合性など) |
| 3.           | 表紙、裏表紙などのデザイン(15点)<br>文字、表示関係の配置(構成)・見返し紙への奥付表記             |
| 4.           | 配色(10点)<br>表紙、裏表紙と見返し紙との組み合わせ                               |
| 5.           | その他(5点)<br>新たな試み、鑑賞時における他の学生からの評価(ポイント)など                   |

### ②「ルーブリック評価」平成28年度(2016年度)～平成30年度(2018年度)

1) 導入、2) 本制作、3) 鑑賞のステージで取り組むべき内容を設定し、A模範的、B標準、C改善を期待の3つの視点からそれぞれ配点して判定し、合計点で評価する。

表2 ルーブリック評価(2016～2018)

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 導入 10点(①5点 ②5点)                  |   |
| ①                                | ・絵本とは何かを考える。<br>・参考図書に触れ、全体の構成、描画方法、書体、判型、用紙などについて観察する。   |
| ②                                | ・本の構造について学ぶ。紙の目(流れ)について学び、適正に紙取りを行う。<br>・本のページ構成を理解する。  |
| 本制作 75点(①15点 ②15点 ③20点 ④5点 ⑤20点) |   |
| ①                                | ・自作絵本について、タテ型にするかヨコ型にするかを定める。(サイズは指定する)<br>・自作絵本の中身を考える。ストーリー仕立てのもの、詩、写真使用の有無、絵の表現方法、言葉や文章などをページ数に合わせて、おおよその構成を考える。 |
| ②                                | ・配布の図面に基づき、必要な材料(ボール紙・見返し紙・本文用紙など)を揃える。<br>・表紙・裏表紙の台紙を完成させる。  |

制作による絵本理解と言葉の視覚化の重要性について

|                  |   |
|------------------|---|
| ③                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙の目(流れ)を理解し、本文用紙の枚数やサイズを揃える。</li> <li>・本文用紙を8枚使用し、扉を含めた裏表16ページ分の展開を考え、本文すべてを制作する。</li> <li>・扉、奥付の情報を考える。</li> </ul> |
| ④                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・扉・奥付の情報を確認する。</li> <li>・本文のページ構成が間違っていないか、テキストに誤字、脱字がないか、読み手を意識した最適なレイアウトとなっているか、などを確認し本文を仕上げる。</li> </ul>          |
| ⑤                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表紙にタイトル等を入れ、裏表紙に必要な情報を入れて仕上げる。</li> <li>・表紙・裏表紙と本文(中身)を合体し、絵本を完成させる。</li> </ul>                                     |
| 鑑賞 15点(①10点 ②5点) |   |
| ①                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した絵本を一人ずつ発表する。</li> <li>・お互いの絵本を鑑賞し、意見や感想を述べ合う。</li> </ul>  |
| ②                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の意見などをもとに、自分の作品について見直し、必要があれば手直しをする。</li> <li>・完成した絵本を期限内に提出する。</li> </ul>  |

### 3. 学生の作品例

#### ①作品の内容について

絵本には、昔話や民話やおとぎ話などの物語系の絵本や、知識の伝達を内容とした自然・社会科学系の絵本、宗教の世界を紹介する絵本などの他、言葉や文字を主題にした絵本、仕掛け絵本、キャラクターの絵本、布絵本など、さまざまな種類がある。

学生が設定するストーリーの多くは、限られた生活空間における家族やペットとの平和な日常が多い。猫や小鳥、熊やウサギなどキャラクターとして親しまれやすい動物を擬人化する。天使や魔法使い、河童やドラゴンなどの空想上の生き物も登場するが、王子様やお姫様などの他、異次元(未来や過去など)から来る自分や他人、あるいは病弱で短命の少年少女などがキャストになる場合もある。テーマには周囲との少しの誤解や配慮、励ましによる立ち直りや感謝の気持ちなど、学生の道徳的な視点が目立たない程度に含まれており、それが作品に投影されているように感じる。

読者を特定の年齢に設定している絵本や、障害者向けのもの(視覚障害者向け：音声によるもの、聴覚障害者向け：点字加工したものなど)、また近年では紙媒体ではなくデジタルによる新しい表現の絵本も登場しているが、絵本の対象年齢に対するイメージを学生にたずねると、乳幼児や小学校低学年をあげる学生が多く、「絵本は子どもが読むもの」というイメージが多い。また、学生自身が絵本を読んだ、あるいは与えてもらった時期も小学校低学年という答え

がほとんどで、その頃の絵本が最も印象に残っているようである。

## ②描画材料と表現

作品は扉を含めた16ページで構成されているが、見開きの使い方次第では展開にメリハリを持たせることができる。本文への着彩はアクリル絵具や水彩絵具、また色鉛筆やパステルなどを使用する学生が多いが、切り絵や仕掛け絵本に挑戦した学生もいた。文字のみで仕上げた作品はほとんどなく、イラストレーションなど絵画的表現を好む傾向にある。左右のページに役割を与えて内容の理解を図ったり、盛り上がりの場面では見開きを多用して臨場感を持たせたり、ページをめくることによる楽しみを場面展開として試みた作品もある。また、ラメや模様入りのマスキングテープ、スパンコールなどの異素材を貼りつけ、コラージュのような仕上がりをねらった作品も見られた。

### 資料1 絵本の制作工程



ストーリーを考える



キャラクターなどを設定



台紙などの制作



色鉛筆による着彩



水彩絵具による着彩



テキストの作成



消しゴムでハンコの作成など



表紙と本文の接合作業



表紙・裏表紙の確認



全体の仕上がりを確認



完成作品

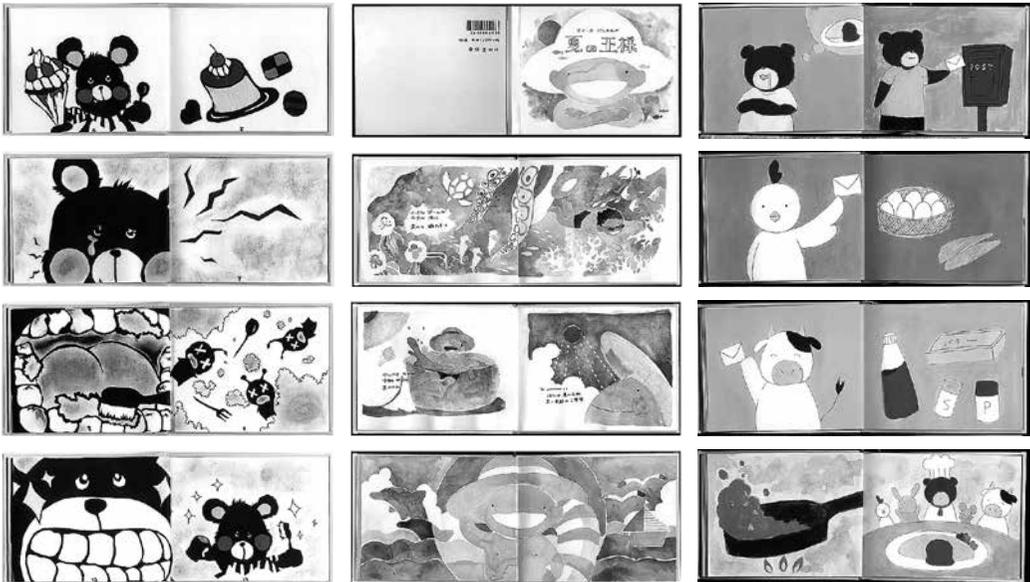


作品の鑑賞

- (1) 「はみがき」 笠原 恵 2009 切り絵による効果を活かした作品。「はみがき」の大切さがわかりやすく、虫歯による痛みを画面全体で表現するページもありメリハリのある仕上がりになっている。クッキーやプリンには茶色や黄色の揉み紙が貼ってあり、甘いものに対する誘惑が強調され存在感がある。パステルや水彩絵具による背景と黒い紙のメインキャラクターとのバランスもよく、下地の画用紙の白さが磨き終わった歯の美しさとしてそのまま利用されているなど随所に工夫が見られる。

- (2) 「夏の王様」西ノ宮 結 2014 夏の海水浴場での思い出を透明水彩絵具で表現した作品。波の躍動感や水の透明感、背景にある入道雲と元気な男の子の無邪気さが一体となっており、夏休みを存分に楽しむ様子が伝わってくる。テキストが適度な量でバランス良く配置されており最後まで一気に読ませる仕上がりとなっている。
- (3) 「オムライス」齋藤あかり 2015 テキストを入れずにイラストレーションのみで表現した作品。オムライスが食べたくなった子熊が、鶏やウサギ、牛などの仲間にわざわざ手紙で呼びかけ、材料の持ち寄りを依頼をする。左側のページに手紙を受け取った仲間たちがそれぞれ描かれ、右側には依頼された材料が描いてあり、左右の見開きページの使い方に工夫がみられる。オムライスの色や柔らかさがうまく表現されており、ぽってりとした重みや柔らかさ、匂いまでイメージすることができる。

資料2 学生の作品例



(1) 「はみがき」笠原 恵2009

(2) 「夏の王様」西ノ宮 結2014

(3) 「オムライス」齋藤あかり2015

まとめ

絵本は視覚に訴える要素が多く能動的に関わることで学びが多い。本棚の隅で背表紙の色がすっかり薄くなった状態になっても、かつての絵本を手元に残している学生も少なくない。そのため絵本に対する親しみやすさを思い出すのは容易である。『美術教育資料研究』（著者：大坪圭輔）の中には、「幼児期の造形表現はその年代特有のものであり、成長するとともに忘れられるものとされるが、それは消滅するのではない。個人の特性を必要としない社会システムの中で、見えにくくなっているだけなのである」<sup>5)</sup>とある。学生には生活上の規律や集団

生活で求められる事柄に対応しながらも、常に別の考え方や方法があるかもしれないという視点を忘れないでほしいと話している。集団行動では周囲に合わせて動くことを求められることが多いが、ひとたび間違った方向に向かっているとそのことに気付きにくいことがあり、結果を一部のせいにしがちである。別の方向を探ったり、提示したりできる客観性を持った視点を大切にしてほしい。絵本の制作は絵画的な表現の上手さよりも、自分なりの視点を大切にすること、読み手を意識して作ることの両方を求めている。

旧学科は美術系のカリキュラムだったことから、学生たちはさまざまな描画材に慣れている上にそれを使用した経験もあり、色の配置や画面構成など、またページをめくる作業への面白さに対して工夫することに向き合う様子が見られた。新学科は司書資格の取得を目指す学生が含まれており、絵画的な表現方法への関心よりも、本の構造や綴じ方に興味を示し、また和書や洋書の歴史、ISBNやバーコードなど本の情報や流通について調べるなど、旧学科の学生たちとは違う視点が感じられた。

絵本は文字や言葉を補完したり、複雑な文章をシンプルに伝えたりすることができるコミュニケーションツールの一つになっている。物事を映像などで記憶し図式で理解することが得意だったり、言葉や会話などの音としての記憶が得意だったり、また言葉や文章を読んで文字情報として覚えるほうが得意だったりなど学生の認知特性はさまざまである。それぞれが得意とする方法で身近な生活圏の歴史や文化に触れ、そこにある知恵や知識を学び、新しい表現方法を模索してほしい。他者を意識した絵本制作の体験が、協調性や共感性を学ぶ機会になることを期待したい。

絵本制作の授業は、旧生活芸術科だけでなく新地域創成学科にとっても重要である。なぜなら、歴史やアートに関心があり、司書や学芸員の資格取得を目指している学生にとって、実際に絵本を制作することは多くのことを気づかせ、また自分らしい表現力を養うと考えるからである。

#### 引用文献および参考文献

- 1) 中川素子、吉田新一、石井光恵、佐藤博一 編集『絵本の事典』朝倉書店 2012
- 2) 中川李枝子 作、大村百合子 絵『ぐりとぐら』福音館書店 1967 (初版)
- 3) エリック・カール 作、もり ひさし 訳『はらぺこあおむし』偕成社 1976 (日本における初版)
- 4) 木村裕一 著、あべ弘士 絵『あらしのよるに』講談社 1994
- 5) 大坪圭輔 著『美術教育資料研究』武蔵野美術大学出版局 2014
- 6) 今井良朗 編著『絵本とイラストレーション 見えることば、見えないことば』武蔵野美術大学出版局 2014